

授業科目名	【G】 研究会 I・II 【EF】 研究会 I・II	区 分 必 修	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目					
授業形態	対面授業					
担当形態	単 独	【G】 【EF】				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	環境行政法を学ぶ			担当者	八木 保夫	
授業概要	【概要】	この研究会では、法学政治学演習における環境行政法の基礎的学習を踏まえて、それをより発展的に学び研究することを目的とする。現代の環境問題は、地域社会から地球規模に至るまで極めて深刻な課題を孕んでおり、それらへの対応如何が、21世紀人類の存亡を決定付ける鍵であると言われている。こうした問題に行政法の観点からアプローチする手法を身に付けるために、研究会では、専門的文献の講読・要旨報告、判例・法令等の検索・報告、CiNii等による文献検索・報告、争点を巡るディベート等、法学政治学演習で修得した基本スキルを活用し、自ら最も関心ある課題と取組んで、一定分量のレポート作成を目指す。 なお、新型コロナウイルスの感染収束時においては、官庁の行政実務担当者への聴取り、行政手続への参加、環境関連施設への見学等の学外活動も行うこととする。				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的文献・判例・法令等の検索方法、口頭発表・討論方法について、習熟することができる。</li> <li>・各種の環境問題に対して行政法的視点から法論理的に思考することができる。</li> <li>・相当量の長さの文章(レポート、論文)を執筆する要領を修得することができる。</li> </ul>				
履修条件	行政法概論・行政法総論、憲法・民法・刑法を履修済み、または同時履修すること。					
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)				
他科目との関連性	法学政治学演習で修得した法論理的思考力を研究課題と取り組みつつ発展させる科目である。国・地方自治体の環境保全に係る行政活動を研究対象とする点では行政法概論・行政法総論・地方自治法等の科目と関連する。公害紛争の行政的処理の点においては行政救済法の科目と関わる。					
教科書	研究素材を、担当教員が準備して配布する					
参考書	授業中に、適宜紹介する。					
評価方法	3年生は、最終レポートの執筆内容及び作成過程での取組態度(50%)、その他の課題の提出物・発表態度(20%)、討論への参加状況(20%)に加え、演習活動全体を通じての取組姿勢等を勘案して総合的に評価する。4年生は、卒業レポートの執筆内容、参考文献の引用方法、添削の受け方等を総合して評価する(100%)。					
フィードバック方法	3年生、4年生とも最終レポート、卒業レポートの執筆の進行に合わせて、毎週書き上げた部分を報告させ、これに添削を加えて返却をする。半期ないし通期を通じて相当の分量のレポート(卒論)の作成を指導する。					
評価基準	単に授業に出席するだけでなく積極的に参加し、課題とその発表に取り組んで成果を上げ、学習した内容を充分理解した者はA評価、これに不足がある者はその程度に応じてBまたはC評価とし、出席が不足し、参加度または達成度が著しく低く演習を受講したと認められない者はその程度に応じてDまたはE評価とする。なお、最終レポートまたは卒業レポートを提出しなかった者はE評価とし、6回以上欠席するなど判定不能な者は「F」となる。					
その他	学生相互間、教員学生間の信頼関係及び協調的融和を尊重すること。					

授 業 科目名	【G】	研究会 I・II	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【EF】	研究会 I・II	必 修		【EF】3		【EF】2
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境法基本教材の各自分担箇所選定。</li> <li>・各分担部分につき、問題点発見、問題発生由来・背景の追跡、問題解決に向けた社会動向、法令制定・改廃経過、学説発展経緯、判例動向等を各種文献・データベース等を活用して調査。</li> <li>・調査結果につきレジюме・レポート作成、報告、全員討論。文献引用について研究倫理上の注意点解説。</li> <li>・参加者報告一巡したところで、他者が分担した環境問題も含めて、現代における各種の環境問題をマイクロ次元からマクロ次元まで重層的に洗い出し、リストアップ。</li> <li>・リスト中から、自分が本格的に取り組むべき課題を選定。</li> <li>・選定した課題について、外国におけるものも含めて、文献資料の収集開始(数ヶ月間)。収集状況について逐次的に報告発表。</li> <li>・収集作業の継続と並行して文献資料の整理・閲読(メディア報道記事、法社会学的資料、政府白書、統計資料、法令、判例、学術記事、著書等に分けて分類)。</li> <li>・整理ノート作成、レポート構想(章節立て等)作成。適宜、行政実務担当者に聴き取り調査。実地調査。</li> <li>・レポート執筆開始。数ページ毎に担当教員に報告・添削。反復継続。研究倫理上の問題点確認。</li> <li>・数十頁執筆が進んだところで、中間発表会。相互に指摘・示唆・内容修正・討論。</li> <li>・執筆の完成近くで、最終報告会。最終調整。結語、参考文献リストを付け、簡易製本して完成。</li> </ul>						
予習内容	<p>卒業レポートのテーマ選定、課題の調査方法、データベースのマニュアル等の準備、検索課題については検索方法の検討、調査結果に基づいてレポートの作成。  添削の受け方の検討準備。  授業ごとの予習時間は120分程度を目安としてください。</p>						
復習内容	<p>教員の添削による指摘の振り返り。次回草稿提出に向けての課題反省。卒業レポート作成を通じて得られた知識の集約。  長文の卒業レポートの作成体験を実社会で活用できるようにする態勢準備。  授業ごとの復習時間は120分程度を目安としてください。</p>						